

暁木会会員 各位

平成 27 年 3 月 吉日
暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第 29 号では母校の近況報告、就職状況、今年から暁木会に入会される学生の方々の思い出メッセージ、暁木会の新たな試み、現役最前線、同窓会報告等幅広い会員の皆様に読んで頂きたい盛り沢山の内容となっております。また、平成 26 年度総会のご案内も掲載させて頂いております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

なお、本編は白黒ですが、カラー版をホームページに掲載する予定ですのでご覧下さい。

母校の近況報告

専攻長 教授 藤田 一郎

暁木会会員の皆様には日頃から市民工学教室への御支援とご鞭撻を賜り、心より御礼申し上げます。おかげさまで当教室における教育・研究は益々充実したものとなってきていることを実感いたします。

さて、母校を取りまく環境は、平成 16 年度に国立大学法人となってから約 10 年が経過した現在、さらに大きく変化しようとしています。ご承知のように、神戸大学は残念ながら文部科学省が大学の国際競争力を高めるために重点的に財政支援する「スーパーグローバル大学」37 校には選定されませんでした。大学の機能強化を進めるための新たな大学改革の取組みは数多く実施されることになっています。組織改革としては、国際文化学部と発達科学部を統合する学部の再編、科学技術イノベーション研究科の創設、年俸制の導入などが進められています。教育改革においては、クォーター制の導入、グローバル共通教育院(仮称)の設置、全専任教員による共通教育の実施など大きな改革が目白押しです。このうち、クォーター制は、授業を従来の前期・後期(セメスター制)をさらに 2 分割し、8 週間を一つの学期とするものであり、平成 28 年度からの実施が決まっています。目的は、2 年生の 6 月から 7 月にかかる学期(ギャップタームと呼ばれる)の授業を減らして学生に短期留学を促すほか、海外からの留学生を受け入れやすくするためですが、そのために授業は週二回が原則となり、6 時限目(終了時刻 20:20)の授業実施も想定されています。神戸大学は学長(武田廣氏へ)や工学研究科長(富山明男氏へ)が 4 月から交代するため、新執行部のもとで以上の改革を円滑に実施しなければならない大変な時期に入っていきます。ただ、人事が選ぶ大学ランキングで全国 2 位という明るいニュースもありました。

工学部に目を向けると、工作技術センターのあった場所に 6 階建ての先端膜工学センターが 2 月に完成し、ここには市民工学専攻のためのスペースも確保されます。工学部の食堂も大幅にリニューアルされました。グローバル化という観点からは、1 年と 2 年の全員に TOEIC を受験してもらい、KTC のご厚意で 600 点を越えた学生には図書券を進呈するという企画があり、市民工学科の学生は 44 名中 5 名でした。研究室レベルでは、国際会議で英語発表する学生も増え、修士論文をすべて英文で仕上げる学生も出てきていることは

喜ばしいことと考えています。

市民工学教室においては、3年生科目「プロジェクトマネジメント」における直接的指導や1年生科目「創造思考ゼミナールⅠ」における学生インタビューの実施などで暁木会OB諸氏の協力を頂くとともに、定例の意見交換会や各支部総会における教員派遣などを通じて交流を深めているところであります。本年度は学術振興基金助成金の一部を学生の海外インターンシップ支援に活用する制度を発足させたところ、夏休みに2名の学生がこれを利用して米国とベルギーで貴重な体験をしてきました。ここに厚く御礼申し上げます。

阪神・淡路大震災から20年を経過した今年、また、全国で自然災害が多発する近年の状況を鑑みるまでもなく、将来の社会基盤を支える優秀な人材の輩出は市民工学科の最も重要な使命と考えております。そのため、本年度は受験生を対象とした学科説明会を神戸市内の予備校で実施し、市民工学の役割に関する情報発信を積極的に行いました。暁木会の皆様のご協力を頂いたその他の事業として、工学サミット、ホームカミングデー、工学フォーラム、建設技術展近畿、学生現場研修会などが実施されました。

教職員異動としては、橋本国太郎准教授の着任(4/1)、宮本仁志准教授の3月末退職(4/1、芝浦工業大学教授着任)、道奥康治教授の3月末退職(4/1、法政大学教授着任)をご報告します。現在の教員構成は下表の通りです。最後に、暁木会の今後の益々のご発展をお祈り致しましてまことに簡単ではありますが、母校および教室の現況ご報告とお礼のご挨拶に代えさせていただきます。

表-1 市民工学専攻・市民工学科の教育研究体制（平成27年2月現在）

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	川谷充郎	三木朋広	
	地盤安全工学	澁谷啓		
	交通システム工学	喜多秀行 井料隆雅		四辻裕文**
	地盤防災工学		吉田信之*	片岡沙都紀
	地震減災工学	長尾毅*	鋤田泰子	
	流域防災工学	藤田一郎	小林健一郎*	
環境共生工学	環境流体工学		内山雄介	齊藤雅彦
	水圏環境工学			
	地圏環境工学	大石哲*	加藤正司	
	広域環境工学	飯塚敦*	河井克之*	
	都市保全工学	森川英典 芥川真一	橋本国太郎	
都市経営工学	小池淳司	織田澤利守		
(安全と共生の都市学)				鈴木千賀**
	技術職員		事務職員	
	前田浩之	近藤克大	中西由彌子	川島悠子
	中西智美	Tara Nidhi Lohani*	山崎 操*	西野典子*

*都市安全研究センター所属

**自然科学系先端融合研究環所属

就職状況の報告

平成 26 年度卒業・修了生就職支援担当教授 小池 淳司
 暁木会会員の皆様には、日頃から市民工学科・市民工学専攻の学生の研究・教育活動へご支援をいただき感謝しております。特に、暁木会会員によるキャリア形成のためのアドバイスは、学生が進路を決めるうえで重要な位置づけになりつつあります。お陰様で、総合建設業・コンサルタントに代表される土木業界、ならびに、地方公務員土木職、鉄道・航空・高速道路会社、エネルギー関連、住宅・不動産など、市民工学教室としての専門教育が直接活かされる職場への就職が年々増えている状況です。今後も大学教育が社会に役立つように、教職員一同尽力いたしますので、暁木会会員におかれましては、引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

平成 27 年 3 月修士修了・学部卒業予定者（*印）の進路数

就職者数	24 人* 44 人		
進学者数	45 人* 0 人	神大	43 人*
		他校	2 人*
留年・休学・未定者数	6 人*		
	1 人		

平成 27 年 3 月修士修了・学部卒業予定者の就職内定先・進学予定先一覧

業種	人数	就職内定先・進学予定先
国家公務員・独立法人	2	日本原子力研究開発機構 (1)、東京国税局 (*1)
地方公務員等	11	大阪府 (1,*1)、兵庫県 (1)、大阪市 (1,*2)、神戸市 (2,*2)、枚方市 (*1)
鉄道、航空	7	日本航空 (1,*1)、西日本旅客鉄道 (2)、九州旅客鉄道 (1)、東京急行電鉄 (1)、神戸電鉄 (*1)
高速道路	3	首都高速道路 (1)、阪神高速道路 (2)
総合建設業	11	大林組 (1)、清水建設 (2)、鴻池組 (1)、五洋建設 (1)、鹿島建設 (1)、大成建設 (1)、前田建設工業 (1)、大成ロテック (*1)、浅沼組 (*2)
コンサルタント	6	ニュージェック (2)、大日本コンサルタント (1)、協和設計 (1)、NIPPO (1)、全日本コンサルタント (*1)
エネルギー	4	東京電力 (1)、関西電力 (1)、東京ガス (1)、出光興産 (1)
通信	1	西日本電信電話 (1)
IT、シンクタンク	5	価値総合研究所 (2)、NTT データ (1)、野村総合研究所 (1)、NTT フィールドテクノ (1)
住宅、不動産	5	大京 (1)、近鉄不動産 (1)、大東建託 (*1)、ジェイアール西日本不動産開発 (*1)、森ビル (*1)
その他メーカー、商社、流通他	14	デンロコーポレーション (1)、リクルートキャリア (1,*1)、セブテニ (1)、日立造船 (2)、三井住友信託銀行 (1)、三菱東京 UFJ 銀行 (*1)、博報堂プロダクツ (1)、メタルワン (1)、日本電気 (1)、富士通 (*1)、三菱化学エンジニアリング (1)、三井倉庫 (*1)
進学、留学	45	神大院 (*43)、京大院 (*1)、東工大学院 (*1)
その他	7	未定 (1,*1)、留年・休学 (*5)

(2015 年 1 月 31 日現在)

()内は人数。*印は学部卒業者。

大学生活の思い出

B4 二宮 僚（橋本研究室）

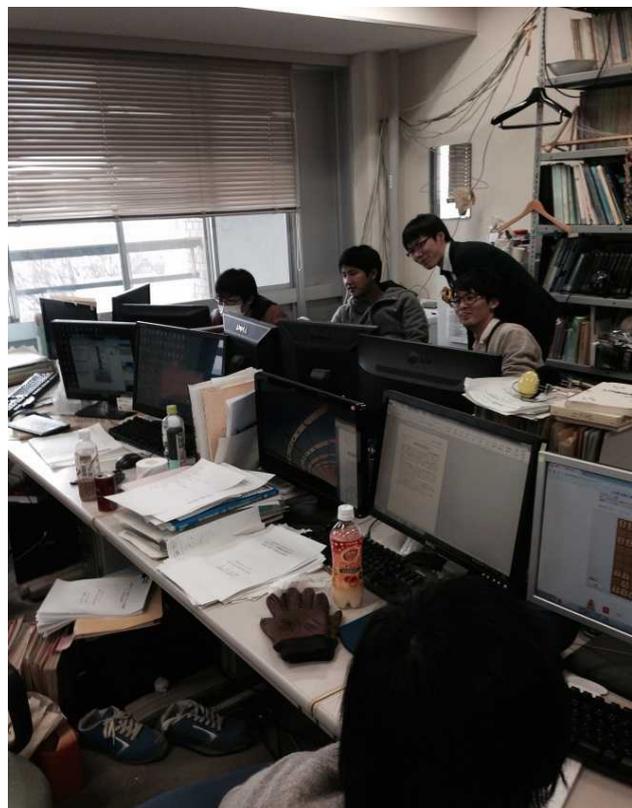
大学生活4年間は思っていたよりも短く、あっという間に過ぎていった印象です。授業や研究、サークル活動やアルバイトなどの充実した日々を送りながら、人間として少しは成長できたのではないかなと感じています。その中で特に感じたことは、何を成すか、ということも勿論大事だとは思いますが、誰と成すか、ということが同じくらい重要であるということです。大学には様々な出身地の人がいて、それぞれ多種多様な考えを持っています。同じゴールを目指していたとしても、そこまでの道のりは一つではなく、寄り道をしながら進んでいくものであり、その途中で多くの人に出会い貴重な経験を積むこととなります。



4回生になると研究室に配属され、大学でのほとんどの時間を研究室で過ごすようになりました。それまでは滅多に話す機会のなかった先生や先輩方と飲みに行ったり、研究のことで相談に乗っていただいたりと、非常に楽しく過ごさせていただきました。また社会人の方と一緒にスポーツをしたり、会社のことを聞いたり、自分が今後社会人になる上で大切なことをたくさん学ばせていただきました。何事にもアグレッシブなところやストイックなところは真似していきたいと思えます。

思えば寄り道ばかりしていたような気がしますが、それらの経験は間違いなく自分にとっての財産になっており、これまでサポートしてくださった先輩や先生方には本当に感謝しています。また他愛のない話に付き合ってくれた友人や、大学生活をバックアップしてくれた家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

私は来年度から大学院に進学しますが、多くの人に支えられているということを忘れず、感謝の気持ちをエネルギーに変え、研究に邁進していきたいと思えます。



【研究室の様子】

大学生活の思い出

B4 井上将徳（小林研究室）

4年という月日があっという間に感じる程、大学生として過ごしたこの4年間は非常に充実したものとなりました。講義や研究、部活動、一人暮らし、アルバイト、遊び等、振り返ってみると本当に多くの体験をすることができたと思います。寝る間を惜しんでレポートやテスト勉強に取り組んだこと、友達と遊び回ったこと、様々なアルバイトを経験したことなど、どれを取ってもかけがえのない思い出です。その中でも部活動での経験は、私を最も成長させてくれたと感じます。私は大学入学と同時にそれまで続けていた野球を辞め、ラクロスという新たなスポーツに取り組み始めました。ラクロスを通して様々な経験をし、また本当に多くの人に出会うことができました。2回生では関西ユース選抜として、全国大会や海外遠征を経験しました。遠征先であったオーストラリアでは多くの国の人々に出会い文化の違いを感じ、また海外ラクロスのレベルの高さを痛感した際には、非常に悔しい思いをしたのを今でも鮮明に覚えています。選抜で出会った他大学の仲間とは、その後2年間良きライバルとして切磋琢磨することができたと感じます。一方学内の練習では、先輩方が怖く、正直怯えながら練習していたのを覚えています。今となっては笑い話であり、良い思い出です。3回生では念願の全日本選手権に出場することができましたが、関東の強豪校に破れ、準優勝に終わりました。大舞台での緊張感や喜び、そして悔しさは、その後一年間の糧となりました。そして、4回生。最上級生として過ごした最後の一年間が、一番充実していたのかもしれませんが。チーム目標は昨年度のリベンジである日本一と掲げ、日々の活動に取り組みました。しかし努力は実らず、結果として関西リーグ5位に終わり、悔しさの中、引退となりました。この悔しさは一生拭い切れないだろうと思います。日本一に向け様々な思いを巡らせ、取り組んだ一年でしたが、今になって実感したことがあります。それは学生スポーツの面白さです。どうしたら日本一になれるのか。練習内容が悪かったのか。取り組みが甘かったのか。もしかしたら運が悪かったのか。それともこれら全てか。勝者からすれば、どうして日本一になれるのか。当たり前のような話ですが、“どうしたら日本一になれるのか”



【ラクロス試合中】

なんて、勝者にも敗者にも恐らく明確には分からないと思います。だからこそ、学生生活の全てを注ぎ込んで、多くのライバル同士が競い合う学生スポーツは面白いのだと思います。的の外れた話になってしまうかもしれませんが、これからの人生も恐らく、答えの見えない試練の繰り返しだと思います。この先様々な困難が待ち受けているかと思いますが、それら全てを楽しみ、乗り越えられるような人間になりたいと思います。

正直4年間は想像以上に厳しく、また辛いと感じることも多かったです。しかし多くの人に出会い、また多くの経験を積めたことは、自分にとって大きな財産となりました。特に4年間毎日のように一緒に過ごし、苦楽を共にした部活の同期、学部の友達には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(大学生活で学んだこと)

B4 西本慎也 (加藤研究室)

大学生活も長いと思っていたのに、気づけばあっという間に間もなく卒業という時期を迎えています。大学生活では授業や研究の他にもサークル活動、アルバイト、旅行など、日々とても充実したと今大学生活を振り返るとそのように感じます。

振り返ってみて思うことは、アルバイトを通じて人間的に成長することができたのではないかと思います。大学入学して間もなくアルバイトを始めた頃、非効率な業務遂行ぶりから厳しく怒られることが多々ありました。また、接客業のアルバイトばかりしてきて、お客様から私の対応が原因で厳しいご指摘を受けることがありました。そのようなことから、自分の行動のどのような点がまずかったのかを反省し、その改善策を常に見出す努力を続けました。また、お客様の言動および行動からどのようなことを望んでいるのかを推察するようになりました。こうした経験のおかげで人と接することの難しさを痛感するとともに、艱難に対する打開策を見出すことや他人の考えていることを読み取る愉しさを持つようになりました。また、大学生活では特に毎日一緒に過ごした同じ市民工学科の友人とはたくさんの思い出があります。飲み会を開催したり、少し遠出をして旅行に出かけたり、毎日の休憩時間等の日常会話もすべてが良い思い出です。

そして、学生最後の一年間は研究活動に取り組みました。研究室のメンバーとゼミを行うことで理解を深め、また、実験ではサポートして下さる先生や研究室のメンバーの方々がいるからこそ成り立っているものでしたので、この場をお借りしまして感謝の意を申し上げます。本当にありがとうございました。

改めて考えると、私は多数の方にお世話になって、非常に楽しく、充実した大学生活を送ることができたと思います。友人や家族にも感謝しております。また、多数の方にご迷



惑、ご心配をおかけしたことにしましては大変申し訳なく思っております。私はこの大学生活を通して、人と人がつながり合うことの重要性を学びました。



【市民工学科の仲間たち】

暁木会若手会員との意見交換会

暁木会活動の課題のひとつに若手会員の増強が取り上げられています。そこで、社会人の若手メンバーと役員を中心に意見交換を行い、若手会員が暁木会へ積極的に参加できる仕掛けづくりを立案する目的で意見交換会を行いました。

まずは、暁木会の若手会員に同窓会活動に興味を持ってもらう仕掛けづくりの取り組みとして、新社会人1年目から3年目の若手会員と暁木会役員とで意見交換会を試行的に実施しましたので、その内容について報告致します。

開催日：平成26年11月21日（金）18：30～21：00

場 所：神 戸

出席者：新社会人：C12及びC14 7名、暁木会：会長、副会長、常任幹事 10名



まず最初に暁木会常任幹事より、暁木会の活動状況（総会、一水会、支部活動など）や大学への支援活動（海外インターンシップ助成など）、会費会員の登録状況などを説明し、その後、懇親会形式で意見交換を行いました。参加者が「新社会人」対「暁木会役員」ということで、年齢差は20歳～30歳ありましたが、夜の会合ということもあり、終始和やかな雰囲気でき意見交換することができました。後日、新社会人に対して「暁木会活動を魅力あるものにするためには」と題した

アンケート調査を実施しましたので、その結果の一部を紹介します。

「市民工学の卒業生同士で集まる機会があるといいと思いますか？」との問いに対しては全員が「良い」と思っており、「自分にとっての刺激になる」との意見がありました。

「暁木会のホームページを見たことがありますか？」との問いに対しては半数以上の方が「見たことが無い」との回答であり、暁木会幹事としては、多くの会員に見てもらえるようなPRをしていくべきだと反省いたしました。

「暁木会活動にどのようなことを望みますか？」との問いに対しては、同級生だけではなく、先輩後輩などの縦の繋がりも求めており、先輩との関わりを通して、自己研鑽や多くの刺激を受けることが出来るのではないかと期待しているとの意見も聞かれ、今後の暁木会活動にどんどん若手会員を引き込んでいく仕組みづくりが必要だと痛感させられました。

今回は平日の夜、開催地が神戸ということで、新社会人の出席者は神戸市役所に勤務する若手会員7名と少数でしたが、暁木会活動を若手会員に認知してもらうために少しでも役に立てたのではないかと

思います。今後は若手会員の声掛け方法等を検討し、出席者の人数と職域を広げて活動できれば、更に有意義な活動となると思います。

最後になりましたが、今回の会の世話役を引き受けて頂きました、神戸市建設局下水道河川部河川課 谷口 麻衣様 C12、神戸市建設局東水環境センター管理課 池上 平様 C14 にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。



報告者：暁木会総務幹事 山下 剛[㊞]

現役最前線

Should→Can→Will、そして Professional

阪神高速道路株式会社 技術部 かなじひでさだ 金治英貞 34

● はじめに

昭和 61 年に大学を卒業後大学院に進み、昭和 63 年に修了し、当時の阪神高速道路公団に就職しました。現在、10 年前に民営化された阪神高速道路株式会社の技術部において技術戦略総括マネージャという職にあります。この職は昨年新たに作られたポジションであり、会社の中長期のビジョンに向かって土木、電気、機械、建築の技術部門がどのように進むべきかを示す「技術戦略」¹⁾を取りまとめ、推進する役です。この戦略は、将来の事業シナリオのほか、研究・技術開発戦略、知財・アライアンス戦略、技術者育成・強化戦略に分かれています(図-1)。どれも大事な戦略ですがやはり根底となるのは人、つまり技術者育成・強化戦略が最重要で、事業戦略等を成功させるための「肥やし」と言えるものです。



● 「育つ」から「育てる」人材育成

弊社では人材育成のアプローチを、Should→Can→Will に分類しています(図-2)。つまり OJT は基本ですがそれだけでは限定的なキャリアアップしか望めないことから、Can, Will が必要なのです。昔はフィールドが多く、また先輩も多く自然と学べる機会に恵まれていました。また徹底的に勉強することの労務管理上の時間制約も少なかったと思います。しかし、今は環境も異なり「育てる」環境づくりが必要で、Can, Will に相当するアクションプログラムを作成しています。その一つとして「技術継承プログラム」があります。技術者としての「柱」を作ってもらおうと一定の分野は継続して学んでもらうものです。会社の性格上、規模上、人を専属的に長く配置することが難しいことから、部署に拘わらず継続的かつ横断的に技術を習得してもらい組織力を向上させるしくみでもあります。

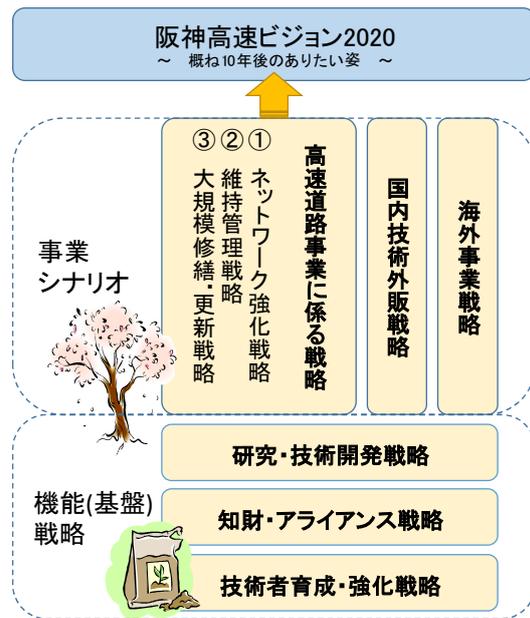


図-1 阪神高速の技術戦略

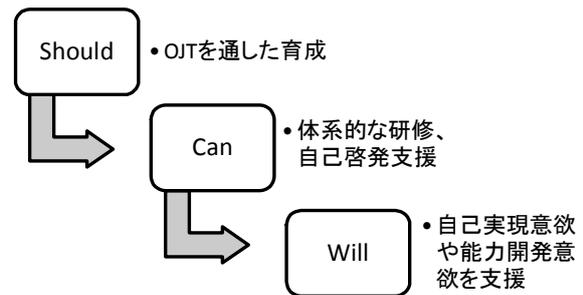


図-2 人材育成のアプローチ

● 大学時代に俯瞰的に学ぼう

人材育成のもっとも原点となるのは大学での教育だと思います。昨年度までの7年間、母校で非常勤講師を仰せつかりました(図-3)。自分自身も成長できる貴重な機会でした。実務ベースで教えていたのでそう感じたと思うのですが、学生にとって、基礎学問がいかに実用的な観点で有益であるか、また種々の授業がどのように関係しているのかがやや見えていないということを感じました。限界もあるとは思いますが、ゴールとの関係が俯瞰的に理解できればもう少しその学問を学ぶ意義などが腹落ちし、またその原理などを深掘りするモチベーションが高まるのではないかと思います。Civil Engineering はよく経験工学とも言われることとも関係すると思うのです。自分の学生時代は決して褒められる学習態度でなかったのが恩師、同級生からは茶々が入るかもしれませんが・・・。



図-3 授業の一コマ

● これから必要とされるプロ型人才

会社で議論していると、自分たちの向かう技術者像は、ゼネラリストかスペシャリストかということがよく話題になります。太田²⁾は、「これから期待されるのはそのどちらでもない」、「自ら新しい価値を生み出したり、複雑な問題を解決したりする高度な技術や能力を用いてある程度まとまった仕事をこなせる「プロ型」が必要とされる」と述べています。授業においても同様のことを伝えてきましたが、まさにその通りだと思います。大量生産のプロダクトアウト時代から顧客重視のマーケットイン時代で望まれる人物像だと思います。弊社においても、Should→Can→Will の人材育成をしっかりと行い、その結果、「柱」を持って俯瞰的に物事を判断できる Professional が一人でも多く育つことを期待しているところです(図-4)。

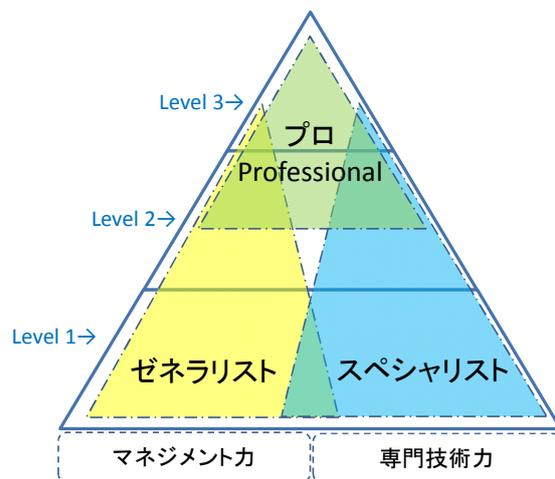


図-4 プロ型人才のイメージ

最後になりましたが、弊社の「技術のチカラ」³⁾を紹介させて頂くとともに、暁木会、市民工学科の皆様の益々のご発展を祈念しております。

【参考】

- 1) <http://www.kozobutsu-hozen-journal.net/interviews/detail.php?id=1072&page=1>
- 2) 太田肇：組織を強くする人材活用戦略、日経文庫、PP29-31、2013.9.
- 3) <http://skill.hanshin-exp.co.jp/great/>

現役最前線

広島大学大学院工学研究科 助教 椿涼太 01C03M

私は、平成18年に藤田一郎教授のご指導のもとに博士後期課程を修了し、その後神戸大学と名古屋大学でポスドクを経験した後に、広島大学大学院工学研究科の助教として勤務を初めて約5年が過ぎたところです。専門は水理学や河川工学ですが、どちらかというところと後者寄りです。河川の流れ、洪水、土砂移動の計測やこれらの流れと水草や藻類との関係などの現地調査をし、また観測できない情報やシナリオ分析を行うための、流れや各種物質移動の数値モデルの開発やモデル改善を行っています。



昨年の夏は、アメリカのアイオワ大学に2.5月滞在し、Dr. Marian Muste や、滞在期間が1週間ほどオーバーラップしたハンガリーのブダペスト工科経済大学から Visiting scholar として滞在されていた Dr. Sándor Baranya をはじめとする研究者と交流しつつ、主に土砂移動の研究をすすめました。具体的には実験水路で水を流して2mmほどの砂粒を水の力で移動させていき、その粒の動きをカメラや照明を工夫しながら追跡して分析するというものです。河川の土砂移動は、河川工学における重要課題の一つですが、土砂の粒の動きについては計測例が少ない状況であり、実験方法を工夫して分厚いデータが取得できると、土砂移動量の算定や河床地形の変化を予測する精度を上げることにつながり、河川環境の管理技術を高度化したり、災害対策に役立つことが期待できます。特に研究者だけでなく、現地の学生や技術職員と絡みながら実験をすすめることができ、どちらかというと、日米で、学生やスタッフのふるまいなどは、違う面もありますが、同じようだな、と思う面の方が多くありました。当たり前ともいえるかもしれませんが、個性の違いの方が、国同士の違いよりも大きいと再確認しました。

続いて、年末は3週間ほど中国の四川大学に滞在し、張新華副教授とともに、土砂移動計測に関する共同研究について議論をすすめたり、現地の学生に実験計測のアドバイスをしたりしました。四川と言いますと、麻婆豆腐が有名ですが、そのほかにも料理に特徴があり、驚いたことの一つは鍋料理を食べたのですが、鍋の出汁が香辛料と脂をあたためたもので、取り皿のタレに相当するものが油であって、脂を油で洗って熱さと辛さを中和して食べるという、日本ではなかなか発想できない食べ方でありました。そのような料理を現地の先生方と、四川の名産である白酒とともにおいしくいただきました。鍋料理をつつきながら、「友人に迷惑をかけることを恐れるな」というような含蓄に富む話を現地のシニアの先生に伺ったりしまして、中国人脈の横のつながりの背景的な思想を垣間見たように感じました。中国の河川・水理系の研究はダム関連が人員・予算など手厚いのですが、ダム建設も一通り終わり、その分厚い研究体制が、河川環境や河川生態などにシフトしつつあるようで、水理・河川工学分野での中国のプレゼンスが増していくように思いました。また、当地で開かれた国際会議に（ある意味なし崩し的に）参加して話題提供をする機会

を与えていただいたのですが、その会議の講演の中で、イギリスのロンドン大学クイーン・メアリーの Prof. John Williams による、多数の土砂粒子が相互作用しながら移動していく最先端の数値計算の事例紹介があました。ちょうど土砂移動の実験データの整理をすすめていたため、興味深く、また私自身も実験と数値計算を併せた今後の研究構想を考えているところであり、数値計算の最先端のレベルを把握することができ、私にとって幸運でした。また、中国滞在中に、現地の夜 11 時にアメリカの Dr. Marian とハンガリーの Dr. Sándor と三人で Skype 会議をすることになり、ネットワークの不安定さと英会話能力の限界が相まって辛い思いをしながら、研究データのツメを行ったりしまして、国際共同研究も大変だなと思いました。またアメリカ、中国の双方から論文書け書けプレッシャーをかけられまして、そのプレッシャーのかけ方のスタイルの違いを味わいながらも、国内においても基本的に同様の雰囲気がありますので、国毎に違いもあるが共通点の方が多いのだと感じ、また当事者として期待をかけられている幸運を感じ、がんばらなければいけないという思いを新たにしました。

こうした活動をできたことは、藤田一郎先生をはじめとするさまざまな方々のサポートのおかげでありまして感謝しております。また私でお手伝いできることがございましたら声をかけていただけましたらと思います。

我ら卒業 50 年 ⑫回生

東京オリンピックが開催された昭和 39 年に卒業した土木⑫回生は平成 26 年 5 月 11 日静岡県焼津グランドホテルに集合した。入学あるいは卒業を同じくした 28 名は時を経て現在 22 名になった。その八割に当たる 18 名が顔をそろえる。数十年ぶりに会う友もいる。姿・形の経年劣化はやむを得ないが、すぐに学生時代に戻る。

亡き友の冥福を祈った後、宴会となり、それぞれ 50 年の人生を語る。いまだフルタイムで仕事しながら水泳のマスターズ大会で世界ベスト 5 の記録を達成したスーパーマン。古希を迎えて芸術大学の通信教育に入学し洋画制作に苦戦している男。カソリックに改宗した男、禅修行で卒業が遅れた男、実家のお寺を継いでいる男がいるが宗教論争にはならない。わがクラス最強の下半身をもつ男が家庭裁判所調停員として最高裁長官表彰を受けており、ブラジルで大女を泣かせたと豪語する男は今では孫のお守。学生時代から



クラシックギターに打ち込んでいた男は退職後も弟子がおり、教室の竹の箒を笛に変えた男は今も日野皓正氏指導のジャズバンドでラップを吹いている。そんなに勉強が好きだと思わなかった男は城郭の研究で博士号を取り今も学会活動に走り回っている。御苦労さま。単身赴任経験が多いわがクラスは半数が現在厨房に入っており奥方を喜ばせている。体調不良を訴えながら巨体を揺すっている男は退職後継いだ農作業に汗を流しており、頭部切開手術を受けた男も元気にヨサコイ踊りや地域活動に走り回っている。日本の医学は進歩している。鉄道好きの男は今も熊野古道・中山道・東海道ともつぱら歩き続けている。ゴルフ大好きな男もさすが回数減らし民生委員など地域に溶け込んでいる。故郷に育った家が残っている男は時々一人で帰省して風を通して。家族揃ってとはいかないようだ。元気維持・ボケ防止のためには会話と刺激を求め、家を出ることも必要な年齢になっている。ボランティア・地域活動・趣味の会・同窓会。みんな努力している。50年生き続けると下世話な話も含蓄深い話になっていく。

二時間半の宴会はアツという間にお開きになり、二次会・三次会と深夜まで語り明かす。2020年の東京オリンピックまではお互い頑張りようということになる。

翌日は久能山東照宮、日本平、世界遺産に指定された三保の松原とバスで回る。卒業50周年を祝福してくれるかのように霊峰富士山もその姿を現してくれる。修学旅行そのものである。最後に清水次郎長の墓にお参りし、今後の勝負運をお祈りし清水駅で解散する。

暇人8名はもう一泊し、旧東海道を興津宿から由比宿まで峠越えを歩く。眼下に東名高速道路・国道1号線・東海道本線が並走している。江戸時代の難所を克服した我が土木技術の素晴らしさを誇らしく思いながら、名物桜エビを味わい解散する。また元気で再会しよう。

(文責：池野 誓男^⑩)



新制 16 回生入学 50 年卒業 46 年古希祝賀同窓会

平成 26 年 10 月 16 日(木)神戸ポートピアホテルにて開催しました。当日卒業生 28 名に加え、工学部在学当時講座のお世話を頂いた浜田晶子さんと中山(旧姓奥)雅子さんにもご出席いただき、卒業 30 年同窓会以来の久しぶりの再会を楽しむことが出来ました。個々の近況を写真とコメント等で綴った記念の冊子を作って欠席者にも配布しましたが、前後の回生と比べて物故者が少し多い(9 名)ことに心が悼みました。50 年前の入学時の集合写真、16 年前の卒業 30 年の集合写真と見比べながら、半世紀前の入学が夢の様でもあり、かつ、ついこの前のような、あっという間に皆いい爺ちゃんになっていることに気づきました。

(文責：幹事代表 藤本 勝記[®])



トナカイ(新制 17 回)卒業 45 周年記念の集い

平成 26 年 10 月 25 日(土)の神戸大学ホームカミングデイに、阪急六甲「六甲苑」で卒業 45 周年記念の同窓会を開催しました。

参加者は、高校の同窓会との掛け持ちながら急遽参加してくれた、稲山君を含めて 19 人でした。今回は連絡も E メールを中心に、全体に簡略化して開催しましたが、新潟、島根、香川など遠くからも参加して頂き盛会になりました。

それぞれの近況報告では、ある人は熱く、ある人はクールに語る姿は、若き頃の姿そのまま、外野からの突っ込みとボケで大いに盛り上がりました。次の 50 周年記念は節目の年になるので、盛大に開催することを約束して散会しました。

(文責：クラス幹事 田中 稔^⑰)



土木工学科 32 回生卒業 30 周年同窓会 in 有馬

卒業 30 周年の同窓会を去る 11 月 1 日・2 日、有馬グランドホテルで開催しました。

30 周年と言えば、夫婦が真珠のように、30 年という年輪を美しく重ね、健康長寿で、若々しく暮らすことを願う「真珠婚」が思い出されます。健康長寿の先生方 6 名(川谷、森津、清水、宮本、福島、瀬良(敬称略))と、若々しい卒業生 37 名が、東は埼玉・千葉・東京、西は岡山から馳せ参じ盛大に執り行うことができました。

卒後 30 年という長い年月は、無残にも紅顔の美青年達を 50 歳代の中高年のオヤジに変身させ、「見たことがあるような誰だっけ?」、「体の細くして、頭を隠したら思い出してきたぞ!」という散々な状況でした。我々の子供も大学生なのだから、世代が一巡したと思えば仕方がないと無理やり納得しました。先生方からは温かい笑顔の中から、勉強しない我々の学年に手を焼いた話など遠い記憶をたどりながらの思い出話に華が咲き、30 年前にタイムスリップしたようで大いに師弟関係を深めることができました。

皆、会社では主要なポストを担い、ますますリーダーシップを発揮しています。我が国の景気も右肩上がりになってきていますので、このまま定年まで駆け抜けて行く勢いです。先生方におかれましても、頭脳明晰・血気盛んまだまだ「50 代の若者」には負けじと、グラス片手に昔取った杵柄で雄弁に語られ、宴会場が講堂に様変わりし唸らせるものがありました。宴会終了後は 2 次会の宴会部屋へ、次の日のゴルフ(8 名参加)があることも忘れて酔いつぶれ、景気回復を追い風にした建設業の発展と近況を語り合いました。

盆暮に三宮界限にて仲間内で宴会し、5 年毎に宿泊宴会を開催している 32 回生ですが、早くも次の 35 周年の「珊瑚婚」の再会を固く誓い合い、散会となりました。

(文責 古田 晴人[㊞])



各支部の取組み

暁木会では全国に4つの支部があり、各支部で各種取組を行っています。是非、異動などの際には、お近くの支部にお声掛けください。総会等の行事予定のご連絡を差し上げます。なお、最近の活動概要をホームページに掲載しています。

暁木会支部のページ：<http://www.gyoubokukai.jp/shibu/shibu.html>

支部名	会員数	支部長	事務局（問い合わせ先）	総会予定
東京	770	山下幸弘㊟	野村 貢㊟(株)建設技術研究所TEL022-261-6861) E-mail : nomura@ctie.co.jp	6月
東海	52	細見孝治㊟	川野幸一 C02 (名古屋鉄道(株)TEL0566-98-7554) E-mail : kouichi.kawano@nrr.meitetsu.co.jp	9月
岡山	54	江原 章㊟	西本 靖㊟ (岡山県美作県民局 TEL0868-23-1437) E-mail : yasushi_nishimoto@pref.okayama.lg.jp	10月
広島	101	岡崎修嗣㊟	高橋俊之 C98 (復建調査設計(株)TEL082-506-1853) E-mail : t-takahashi@fukken.co.jp	7月

【岡山支部ニュース】

支部総会(H26.10.05開催)を地元紙、山陽新聞の「集い」欄に投稿したところ、先般(1/28)掲載されました。

2015/1/28

山陽新聞 朝刊より



(岡山支部事務局 西本 靖㊟)

第 131 回 暁木一水会 開催報告

協和設計株式会社 小川 清貴④

第 131 回暁木一水会を平成 26 年 11 月 5 日に開催致しました。今回は【名塩道路八幡トンネル工事(発注者：国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所、施工者：(株) 鴻池組)】の建設現場にて見学会を開催し、総勢 29 名の皆様とトンネル現場を見学し、その後懇親会を開催しましたのでご報告させていただきます。

【工事目的】

西宮市から宝塚市の国道 176 号は、歩道が未整備で異常気象時通行規制区間を有しながら、発展の著しい阪神北部地域と阪神都市圏を結ぶ役割を担っており、名塩道路を幹線道路としての機能向上、安全確保を図るとともに、救急・救助活動の搬路として利用できる災害に強い道路を目指し、整備が進められています。



図-1 完成予想図(CG)

【工事内容】

工事延長 L=288.0m(上り線)(下り線)

トンネル工(NATN) 超近接めがねトンネル

掘削延長(山岳トンネル区間)：L=242.0m(上り線)(下り線)

内空断面積：A=56.8m²(上り線)、A=78.4m²(下り線)

掘削断面積：A= 85.3 ～ 87.0m²(上り線)、A= 113.4 ～ 116.7m²(下り線)

掘削方式：補助ベンチ付全断面工法(インバート早期閉合)

インバート工：L=242.0m(上り線)(下り線)

覆工コンクリート・防水工：L=242.0m(下り線)

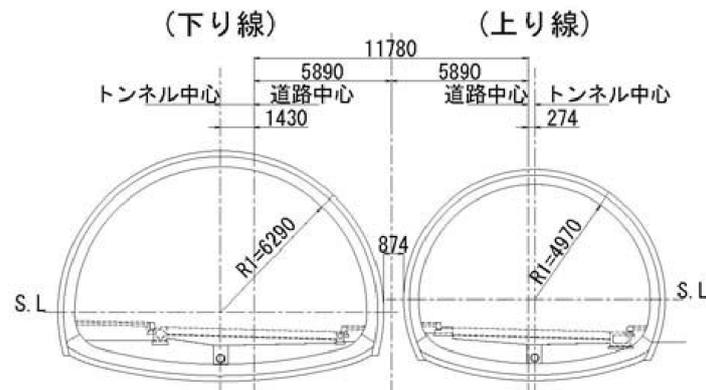


図-2 トンネル断面図

【施工上の課題と対策】

- ① 近接構造物(中国自動車道、マンション)への影響予測を数値解析により実施し、計測観測体制の強化と補助工法（注入式フォアポーリング、長尺鋼管フォアパイリング）を採用されています。
- ② 相互のトンネルの切羽離れを確保(約 100m) するなど、トンネル併設影響を考慮した施工計画を立案されています。
- ③ 住居が密集する起点側坑口部においては、掘削は機械掘削方式を採用し、防音パネル+防塵ネットおよび防音ハウス（送風機。ズリ仮置き場）により、周辺環境に配慮されています。



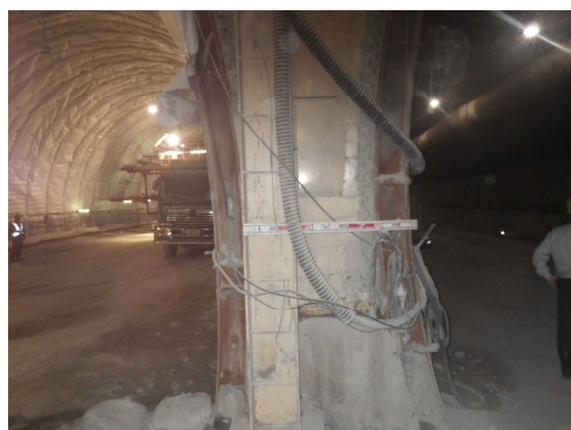
写-1 起点側トンネル坑口



写-2 計測結果見える化システム(OSV)



写-3 トンネル内工事状況



写-4 上下線トンネル近接状況

今回の現場見学会では、トンネル相互の併設影響を考慮した施工、計測結果見える化システムの現場への利用、周辺環境に配慮した計画などを見学でき、非常に有意義なものであったと思います。

見学会後、楠公会館（湊川神社内）に場所を移し、18:00より懇親会を開催しました。暁木一水会代表世話人沖村孝様[㊦]のご挨拶、河南嘉彦様[㊧]の乾杯のご発声、井澤元博様[㊨]の中締めで会は終了致しました。



写-5 懇親会

次回の見学会は第 135 回暁木一水会で開催予定です。なお、各回の案内及び申し込み方法は、開催日の約 1 ヶ月前に暁木会ホームページでお知らせいたします。多数のご参加をお待ちしております。



写-6 集合写真

暁木一水会平成 26 年度活動報告 & 平成 27 年度活動予定

【平成 26 年度の暁木一水会の活動報告】

回	開催日	演 題	講 師 (敬称略)
129	H26.5.14	平成 26 年度の主要施策 兵庫県 神戸市 大阪府	県土整備部県土企画局技術企画課長 伊藤 裕文 (C-32 回) 住宅都市局計画部まち再生推進課 まち再生推進担当部長 濱村 吉昭 (C-33 回) 大阪府寝屋川水系改修工営所工務課長 堀内 孝治 (C-34 回)
130	H26.8.6	「神戸とオリーブの素敵な関係 — 国営 「神戸阿利襪園」の歴史とまちづくり」	クラブ`インターナショナルアカデ`ミ神戸 顧問 中西テツ
131	H26.11.5	【名塩道路 八幡トンネル工事】現場見学会 発注者：国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所、施工者：(株) 鴻池組	
132	H27. 2.4	「橋は揺れている — 橋梁交通振動に携わって—」	神戸大学大学院工学研究科 教授 川谷 充郎

【平成 27 年度の暁木一水会の活動予定】

回	開催日	演 題	講 師
133	H27.5.13	平成 27 年度兵庫県・神戸市・大阪府の主要施策	兵庫県、神戸市、大阪府職員
134	H27.8.5	未定	一般の講師など
135	H27.11.4	見学会	
136	H28. 2.3	未定	母校の先生

場 所 楠公会館 (湊川神社内)
住所：神戸市中央区多聞通 3-1-1 電話：078-371-0005

会 費 4 千円

連絡先 代表世話人 沖村 孝㊦
暁木一水会連絡調整役：
Tel 072-627-9351 (協和設計株式会社)
メールおよび携帯電話連絡先
西本 憲生㊦ 090-4294-9329 E-mail Nishimoto@kyowask.co.jp
坪本 正彦㊦ 090-6373-6250 E-mail tsubomoto@kyowask.co.jp

暁木会平成 26 年度総会のご案内

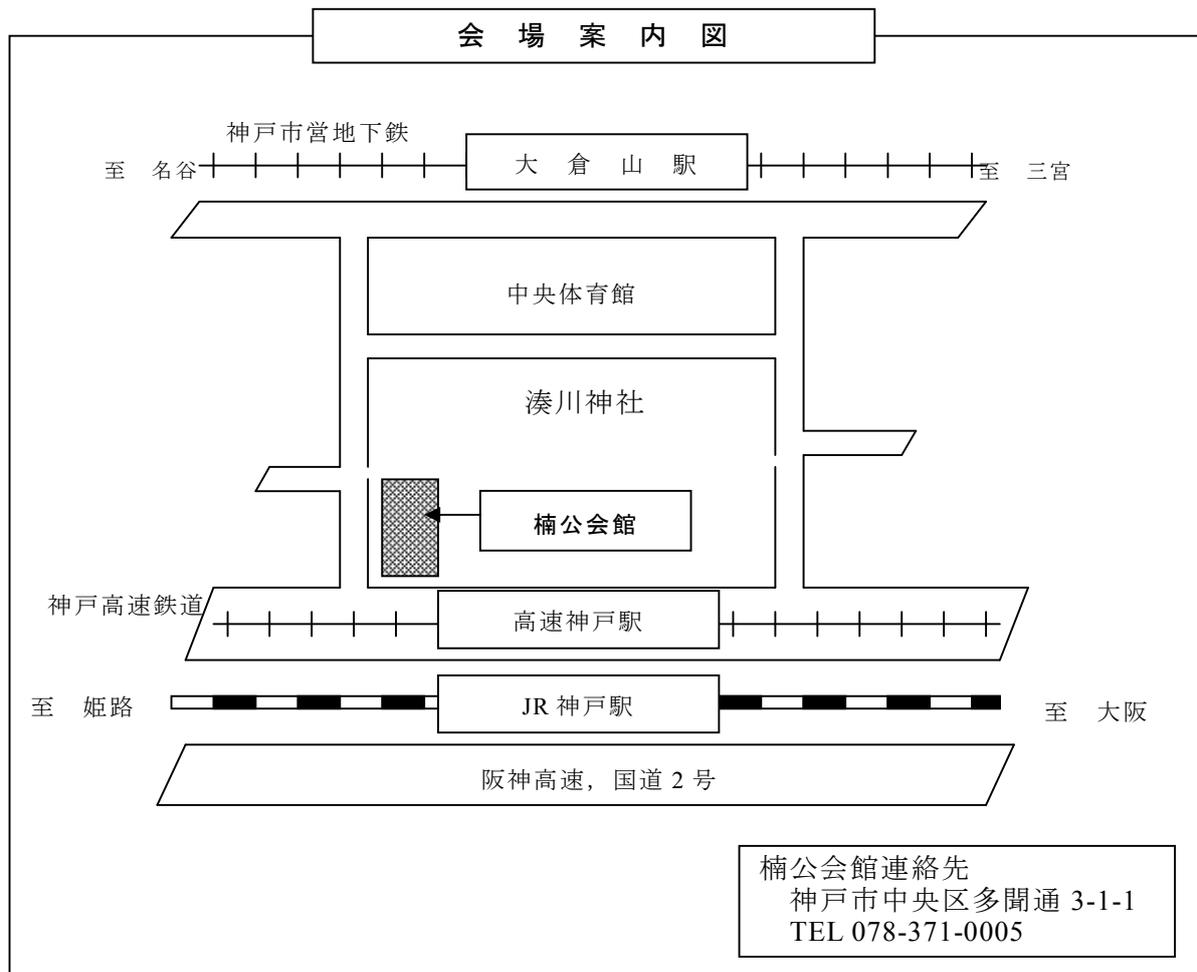
平成 26 年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしく願いいたします。

■日 時 平成 27 年 3 月 25 日（水） 午後 6 時～午後 7 時 20 分

■場 所 湊川神社 楠公会館
（最寄駅は、JR 神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅）

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。
なお、会費（5,000 円）は当日徴収いたします。
（懇親会 午後 7 時 30 分～午後 8 時 40 分）

■連絡先 常任幹事 山下剛ツヨシ（大成建設株） TEL (078)322-5525 FAX (078)322-5526
Email : info@gyoubokukai.jp
ホームページ : <http://www.gyoubokukai.jp>

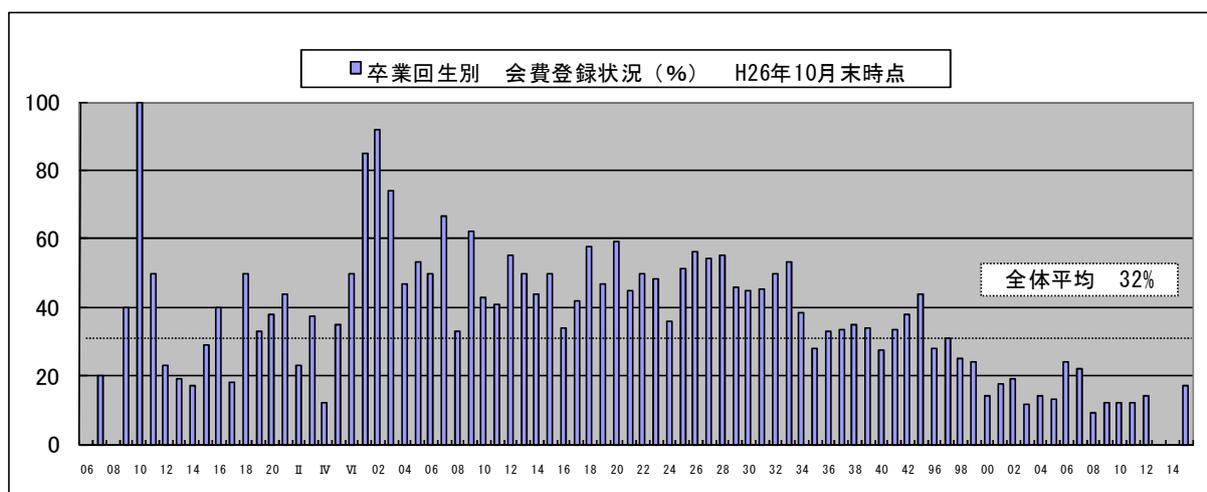


暁木会年会費納入のお願い

平成 15 年度から導入いたしました年会費につきましては、平成 26 年 10 月現在、1,176 名を数える会員各位にご理解とご協力をいただいています。本誌をもってお礼を申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには未だ十分ではありません。現在、暁木会としては職場別に会員増強に向けたお願いや新規会員の獲得に向け、若手との親睦会を開催するなど会員の増強に取り組んでおります。また、KTC のメーリングリストやクラス幹事を通じて会費納入の依頼も行っているところです。活動の一環としては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をしており、会員登録いただいた会員各位には会員名簿を送付いたします。会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、次ページ下記の連絡先までご連絡くださいませ。よろしくお願いたします。

※年会費(3000 円)の集金方法につきまして、現在、集金代行業者（三菱 UFJ ニコス株式会社）に委託し、会員の指定金融機関から年 1 回の自動引落しの制度を採用いたしております。



暁木会名簿改訂に関するお願いとお詫び

平成 26 年度は 2 年に 1 度の名簿改訂を行いました。暁木会会員の皆様方には No.28 号暁木会ニュースと共にお届けいたしました。改訂に際して、誤記あるいは未更新等不十分な点多々あったかと思えます。ご容赦をお願いするとともに下記の①～⑪の項目のうち、変更がある項目について更新情報を記載の上、次ページ返信先メールアドレスまで更新情報の報告をお願いいたします。

記載内容

- ①会員番号 ②ご氏名（ふりがな）③旧姓名（ふりがな）
- ④卒業年 ⑤ご自宅住所 ⑥ご自宅電話番号 ⑦メールアドレス
- ⑧ご勤務先／所属／役職 ⑨ご勤務先住所 ⑩ご勤務先電話番号
- ⑪ご勤務先メールアドレス

返信先メールアドレス

ktc@mba.nifty.com

※ 件名は、「暁木会名簿情報更新（卒業回、ご氏名）」としてください。

その他

- ・「⑦メールアドレス」をご報告いただくと、「KTCより各種お知らせ」や「次回名簿改訂時の変更情報の照会」などを送信いたしますので、ご協力をお願いいたします。
- ・⑦と⑪のメールアドレスは同じでも構いません。

今後は更に充実した暁木会の内容をお届けできるよう取り組んで参りますので、皆様方のなご一層のご協力をお願いいたします。

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひニュースにその様子を連絡下さいませ。同窓会はホームページにカラー版でアップいたします。

また、その他、ご意見等がございましたら、下記連絡先までよろしく申し上げます。

発行者：暁木会

E-mai：info@gyoubokukai.jp

連絡先：常任幹事広報 G 小川 修隆 院 28

株式会社竹中土木 大阪本店

TEL：06-6252-4084 FAX：06-6271-0743

E-mai：ogawa-n@takenaka-doboku.co.jp